

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

AS

(11)Publication number : 03-161416

(43)Date of publication of application : 11.07.1991

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

(21)Application number : 01-304214

(71)Applicant : KANEBO LTD

(22)Date of filing : 21.11.1989

(72)Inventor : TSUCHIYA YUICHI  
YOSHIDA KATSUHIKO

## (54) SKIN COSMETIC

## (57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a skin cosmetic, containing royal jelly and mucopolysaccharides, capable of imparting moistness to the skin with excellent feeling of use and having excellent effects on skin protective and moisturizing effects.

CONSTITUTION: A skin cosmetic obtained by containing (A) 0.01-10wt.%, preferably 0.05-5wt.% royal jelly and/or an extract thereof (optimally extracted with an ethanol solution) and (B) 0.005-5wt.%, preferably 0.01-3wt.% mucopolysaccharides (e.g. chondroitin 4-sulfate, hyaluronic acid or heparan sulfate) in a cream, milky lotion, toilet water, foundation, etc.

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-161416

⑤ Int.Cl.<sup>5</sup>

A 61 K 7/00

識別記号

K  
J  
W

庁内整理番号

9051-4C  
9051-4C  
9051-4C

④ 公開 平成3年(1991)7月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

④ 発明の名称 皮膚化粧料

② 特 願 平1-304214

② 出 願 平1(1989)11月21日

⑦ 発 明 者 土 屋 雄 一 静岡県駿東郡長泉町下土狩555番地30号

⑦ 発 明 者 吉 田 勝 彦 神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋228番地8号

⑦ 出 願 人 鐘 紡 株 式 会 社 東京都墨田区墨田5丁目17番4号

明 細 書

1. 発明の名称

皮膚化粧料

2. 特許請求の範囲

ローヤルゼリー及び／又はその抽出物と、ムコ多糖類及び／又はその塩類とを含有することを特徴とする皮膚化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、皮膚にしっとり感を与え良好な使用感を有し、皮膚の保護並びに水分付与効果等に優れた効果を有する皮膚化粧料に関する。

〔従来の技術及び発明が解決しようとする課題〕

従来、皮膚化粧料は、皮膚表面の成分とほとんど同一のものを皮膚上に再現することが理想とされ、皮膚角質層の水分含有量を減少させないために、保湿剤、薬剤、油等が種々の組合せで配合されて来ている。

経表皮性水分損失を抑制する方法として、皮脂類似組成物を皮膚表面に被覆し、皮膚表面から水

分の蒸散を防ぐものであるが、水分損失効果を高めるためには、その被覆量を多くしなければならず、ベタベタする等不快な使用感となる。一方、被覆量を少なくすると水分損失を抑制する効果が減少するという欠点がある。

次に、皮膚水和効果を高める方法として、グリセリン、ソルビトール、プロピレングリコール等の多価アルコールを保湿剤として用いる方法が知られているが、十分な効果は得られていない。また、上記多価アルコール以外に、皮膚水和効果を高める目的で、各種生体成分即ち、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸ムコイチン硫酸、カロニン硫酸等のムコ多糖類及びアミノ酸、コラーゲン及びその誘導体、エラスチン及びその誘導体等の使用があげられる。しかし、ムコ多糖類の場合は、単独では吸湿性、包水性ともほとんど認められないと同時にムコ多糖類及び可溶性コラーゲンのいずれも、単独では、低湿度下に於て皮膚中から水分を吸湿する効果が非常に大きくなり、その結果、皮膚表面から多量の水分を損失せしめる等の欠点

を有している。また、効果を高めるためにはその配合量を著しく高めなければならない、しっとりさというよりむしろべた付きとして強く感じられ、良好な使用感が得られない。

本発明の目的は、皮膚に対して良好なしっとり感を与え、皮膚の保護並びに水分付与効果に優れた効果を有する皮膚化粧料を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本発明は、ローヤルゼリー及び／又はその抽出物とムコ多糖類及び／又はその塩類とを含有することを特徴とする皮膚化粧料である。

本発明に用いられるローヤルゼリーは、王乳ともいわれ、ミツバチ (*Apis mellifica*) の咽頭部から分泌される微黄色、乳液状の物質である。

本発明に用いられるローヤルゼリー抽出物の抽出方法は、一般的な方法で良いが、効果の面からローヤルゼリーをエタノール溶液で抽出したものが最も好ましい。

本発明において用いられるローヤルゼリーまたはその抽出物の含有量は、皮膚化粧料全量中の

0.01~10重量%が好ましく、更に好ましくは0.05~5重量%である。0.01重量%未満では、所定の使用感を付与することが困難であり、10重量%を超えて配合することはローヤルゼリーの溶解性の問題から、均一で安定な皮膚化粧料を得るのが困難となる。

本発明において用いられるムコ多糖類またはその塩類としては、コンドロイチン4硫酸、コンドロイチン6硫酸、デルマトン硫酸、ヒアルロン酸、ヘパラン硫酸、ケラト硫酸又はその塩類等が挙げられる。

本発明において用いられるムコ多糖類及び／又はその塩類の含有量は、皮膚化粧料全量中の0.005~5重量%が好ましく、更に好ましくは0.01~3重量%である。0.005重量%未満では、所定の水分付与効果は得られず、5重量%を超えて配合することは、均一で安定な皮膚化粧料を得るのが困難となる。

本発明の皮膚化粧料には、上記の必須成分に加えて、一般に皮膚化粧料に常用されている成分や

添加剤を、本発明の効果を損なわない範囲内で配合することも可能である。例えば、高級アルコール、シリコン油、ラノリン誘導体、蛋白誘導体やポリエチレングリコールの脂肪酸エステル類等の油性成分、脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル及びアルキルアミノオキシド等の非イオン界面活性剤、N-ラウロイル-N'-カルボキシメチル-N'-(2-ヒドロキシエチル)エチレンジアミンナトリウム、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン等の両性活性剤、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース等の水溶性高分子、カチオン性高分子(ポリマーJ R(ユニオンカーバイドコーポレーション社製)、ポリコートN II(ヘンケル社製)、グリセリン、ソルビトール、プロピレングリコール等の多価アルコール、ビタミン等の薬剤、防腐剤、殺菌剤、pH調整剤、紫外線吸収剤、レシチン、ゼラチン等の動植物抽出物あるいはその誘導体、色素、香料、ナイロン、ポリエチレン等のポリマー微粉末等を含むことが

できる。

本発明の皮膚化粧料は、クリーム、乳液、化粧水、ファンデーション等に適用される。

(実施例)

次に実施例によって本発明を更に詳細に説明する。

なお、効果の測定は以下の評価法によった。

#### 1. 皮膚水分含有量・水分保持能測定法

健康成人の前腕屈側部に試料20 $\mu$ lを4 $\times$ 4cm<sup>2</sup>の面積に塗布し、塗布30分後における皮膚表面水分含有量と角質水負荷試験による水分保持能を高周波に対する伝導度測定装置(Skin Surface Hydrometer; IBS社製)を用いて測定した。その方法は、香粧会誌Vol. 6 No. 2(1982)、田上氏らの方法によった。

#### 2. 実用試験

女子20人(パネラー)が皮膚化粧料を1週連続した場合の、使用感(しっとり感、べたつき感等)の良否を判断してアンケートに答えその評価を以下のように判定した。

評価基準 評価記号  
 良いと答えた人が18人以上の場合 ○  
 “ が14～17人の “ ○  
 “ が8～13人の “ △  
 “ が7人以下の場合 ×

実施例1～3、比較例1～3 クリーム  
 第1表に示す配合組成のクリームを通常の方法で調製し、各必須成分の効果を調べ、第1表にその結果を示した。

(以下略)

第1表

(配合組成)	実施例			比較例			水分含有量(%)	水分保持能(%)	実用試験
	1	2	3	1	2	3			
セタノール	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	22.0	11	×
サラシミツロウ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	43.0	25	△
親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	38.0	22	×
モノステアリン酸ポリエチレン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	153.5	65	○
グリコール(2E.O.)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	127.0	50	○
スクワラン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	95.0	35	○
ミリスチン酸オクチルドデシル	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	残	残	残
メチルポリシロキサン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	残	残	残
セチル硫酸ナトリウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	残	残	残
ローヤルゼリー	0.01	5.0	10	—	10	—	残	残	残
コンドロイチン4硫酸	0.005	2.0	5	—	5	—	残	残	残
精製水	残	残	残	残	残	残	残	残	残
(試験結果)									
水分含有量(%)	95.0	127.0	153.5	38.0	43.0	22.0	22.0	11	×
水分保持能(%)	35	50	65	22	25	11	22	11	×
実用試験	○	○	○	×	△	×			

実施例1～3より明らかなように本発明の皮膚化粧品はいずれも優れた性能を示した。一方、どちらかの必須成分を欠いた比較例1、2及び必須成分を配合しない比較例3では、すべての点に於いて不十分であった。

実施例4 クリーム

次の配合組成よりなるクリームを調製し、前記の方法にて評価した。

(配合組成)	(重量%)
ステアリン酸	0.5
親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
流動パラフィン	0.1
セタノール	2.5
スクワラン	4.0
ジプロピレングリコール	5.0
セチル硫酸ナトリウム	1.0
ローヤルゼリー	1.0
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1
香料	適量
純水	残

このクリームは、皮膚への水分付与効果・水分保持作用に優れ、使用感(しっとり感)も良好であった。

実施例5 乳液

次の配合組成よりなる乳液を調製し、前記の方法にて評価した。

(配合組成)	(重量%)
ステアリン酸	0.8
親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
コレステロール	1.0
モノオレイン酸ポリオキシエチレン	
ソルビタン(20.E.O.)	1.0
流動パラフィン	13.0
エデト酸ニナトリウム	0.02
ベントナイト	0.3
濃グリセリン	5.0
パラオキシ安息香酸メチル	0.15
ローヤルゼリー	1.0
ローヤルゼリー抽出物	1.0
コンドロイチン6硫酸ナトリウム	2.0

香料 適量  
精製水 残余  
\* ローヤルゼリーを20%エタノールで抽出したもの。

この乳液は、皮膚への水分付与効果・水分保留作用に優れ使用感(しっとり感)も良好であった。

#### 実施例6 ファンデーション

次の配合組成よりなるファンデーションを調製し、前記の方法にて評価した。

(配合組成)	(重量%)
セタノール	4.0
脱臭ラノリン	4.0
ホホバ油	5.0
スクワラン	7.0
ステアリン酸モノグリセリル エステル	3.0
プロピレングリコール	13.0
調合粉末	12.0
P.O.E (60E.0) 硬化ヒマシ油	2.0
ローヤルゼリー	3.0

ローヤルゼリー抽出物 \* 10.0  
デルマタン硫酸 2.5  
デルマタン硫酸ナトリウム 2.5  
精製水 残余  
\* ローヤルゼリーを20%エタノールで抽出したもの。

この化粧水は、皮膚への水分付与効果・水分保留作用に優れ使用感(しっとり感)も良好であった。

#### 実施例8 美容液

次の配合組成よりなる美容液を調製し、前記の方法にて評価した。

(配合組成)	(重量%)
エタノール	7.0
ブラセンターエキス	0.1
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 (60E.0)	0.1
濃グリセリン	2.0
1,3-ブチレングリコール	2.0
ポリオキシ安息香酸メチル	0.1

ヒアルロン酸 0.01  
香料 適量  
精製水 残余

このファンデーションは、皮膚への水分付与効果・水分保留作用に優れ、使用感(しっとり感)も良好であった。

#### 実施例7 化粧水

次の配合組成よりなる化粧水を調製し、前記の方法にて評価した。

(配合組成)	(重量%)
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1
エタノール	12.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 (60E.0)	0.5
モノラウリン酸ポリオキシエチレン ソルビタン (20E.0)	0.1
ポリエチレングリコール600	5.0
リン酸二水素カリウム	0.1
ソルビン酸	0.05
香料	適量

ソルビン酸 0.01  
ウロカニン酸エチル 0.01  
キサントガンム 0.3  
ヒアルロン酸ナトリウム 0.1  
香料・色素 適量  
ローヤルゼリー抽出物 \* 7.0  
ケラト硫酸 0.005  
精製水 残余  
\* ローヤルゼリーを50%エタノールで抽出したもの。

この美容液は、皮膚への水分付与効果・水分保留作用に優れ使用感(しっとり感)も良好であった。

#### (発明の効果)

以上、記載のごとく本発明は、皮膚にしっとり感を与え良好な使用感を有し、皮膚の保護及び水分付与効果に優れた効果を有する皮膚化粧料を提供することは明らかである。

特許出願人 雄 紡 株 式 会 社

